

# 子どもたちの明日

## Children, Our Future



### 目次

- ・「農村の保育所」のこれから 1頁
- ・村の幼稚園の子どもたち  
「褒められて育つ子どもたち」 2頁
- ・卒園児のいま 4頁

### 1

## 「農村の保育所」のこれから

### 保育所開設のいきさつと変転する現状

1990年秋、10年越しにタイの難民キャンプで暮らしたカンボジア人の帰還計画が具体化し、幼い難民を考える会は、カンボジア国内の保育状況調査を始めました。戦後の復興を急ぐカンボジアで、政府の手が届かない農村の子どもたちに、10年に及んだキャンプ内の保育体験を生かす、というのが目的でした。当時、いたるところで内戦の傷跡を残すカンボジアは、人口約800万人。その内、成人の64%、世帯主の45%が女性でした。調査でわかったのは、農作業と育児に追われる母親の「安心して子どもを預けられる施設がない」という切実な声でした。農村対象の幼児教育は政策にはあっても実情はゼロでした。こうして開設したのが、プレイタトゥ保育所（1992開設）とバンキアン保育所（1994開設）です。設立の骨子は、「幼児の成長を助けて地域の関心を高めつつ、貧しい女性を支える」です。幸い日本から惜しみない協力と支援を得た両保育所は、村人たちの子育てと励みの場になりました。以来20年の間に、多くの卒園児が進学、それぞれの道を経て就



25年にわたり子どもたちを見守ってきた農村の保育所。これまでに798名が卒園した。

職し、家計を助けるまでになりました。現在、当会カンボジア事務所で働く保育チームの職員も、小さい頃の夢を叶えた卒園児の一人です。

とはいえ、村人による自主運営を長期的に据えた両保育所は、20数年後の現在も、自立の課題を果たせないままです。自主運営が難しい要因の一つは、社会環境の激変です。開発途上国の経済発展に欠かせない工業化が、村の暮らしを変えたのです。広い水田地帯には大規模な工場が建ち、現金が得られる工場で働く村人が増えました。そして若い保護者は子どもを家に残して働きに出ます。物価も高騰して生活費が上がると同時に、保育所運営の費用も膨らんでいます。これまで農作業で忙しい母親を支えてきた保育所が、今は工員の家族を支えなければなりません。

### 両保育所が挑む課題—自主運営

当会では、両保育所の自立を具体化するために、現在の状況変化による村人の

要望に応え、両保育所の運営形態を変える計画を立てました。関係者との度重なる話し合いを経て決まったのは、バンキアン保育所を半日保育の「村の幼稚園」とし、プレイタトゥ保育所は、これまで通り全日保育を残す再出発案です。これは半日・全日保育という二つの形態を維持しながら、地域の需要に応える試みです。そこで2017年度を再出発への移行期間とし、2018年4月から自主運営に切り替えるのです。

この再出発計画は、保育所・村の幼稚園の運営を村人に移行することで、20年、30年先まで施設運営が続けられ、一人でも多くの子どもたちが保育施設で学び、進学できる将来を実現させるためです。当会は今後も両保育所が自立するまで見守り、他の農村地域で、地域主体の「村の幼稚園」開設のきっかけを作っていきます。幼稚園が必要な村に新設し、既存の幼稚園の自主運営を実現できれば、より多くの子どもたちに学ぶ機会が生まれます。以下の現場関係者のコメ

ントにもあるように、将来はカンボジアの人たちの力で、見逃されがちな農村の幼児教育を普及できるよう、当会は長期的な活動を続けます。今後も支援者の皆様のご理解を得て、変わらないご支援をいただけるよう、現地から生の声をお届けします。

#### 保育現場と地域責任者のことば

マーチ先生（47歳、プレイタウト保育所）：長いこと保育所で働いて、子どもたちを大勢育てた私にとって嬉しいのは、卒園児が就職して良い生活をしていると聞くことです。昔、保育所に通っていた子が親になって、今はその子どもたちが相手です。以前は「先生」と呼ばれたのに、この頃は「おばあちゃん先生」なんて呼ばれたりします。若い頃に比べると、保育所の仕事は大変です。けれど、次々と子どもたちは生まれてくるし、学ぶ必要のある子どもがたくさんいるので、保育所をなくさないように一生懸命に働きたいと思っています。これからは保育所責任者として、質の良い教育を用意したいと思います。そして自主運営が達成するように、地区評議会と保護者にも協力を呼びかけます。日本の皆さんには長い間、保育所を支援して頂いて本当に感謝しています。

ボラー先生（49歳、バンキアン保育所）：この保育所は1994年から23年間、たくさん子どもたちを受け入れ、良い人材をたくさん育てました。私は保育の仕事は好きですが、大変だと感じることも多くあります。特に、新入園児が多い時期は、保育所の環境に慣れない子どもの事故が心配になります。最近は先生の数が減って、子どもの面倒を十分見ることができません。また、困るのは保護者が朝早く仕事に出てしまい、直接協力をお願いするのが難しいことです。けれども、子どもたちを見ていると話し方が特に可愛らしく、仕事の疲れなど忘れてしまいます。子どもたちに願うのは、勉強はもちろん、手洗いや歯磨き、挨拶など良い習慣を身に着けることです。

今後、保育所は自主運営に挑戦しますが、不安もあります。保護者が払う協力金で賄えるのは給食費用だけで、保育者の給与には足りません。今後は地区評議会の協力を得て、教育省の「公立地域幼稚園」にこの保育所を登録する計画です。そうすれば教育省の予算で、自主運営が確実になると思います。そして、これまで以上にみんなで力を合わせて、保育所を運営したいと思っています。

ナイ・チャンディさん（56歳、バンキアン地区長）：この20数年で村人の生活は大きく変わりました。村の人口は増え、休耕田を埋めた場所に家がどんどん建っています。若い人のほとんどは工場勤めで、年寄りには稲作をする体力がないところに、儲けが出せず農業を辞める家も多くなっています。村人の間に、金持ちとそうでない人の差も出てきたように思います。

保育所に通う子どもには給食や昼寝の時間があり、先生に見守られて健康に育っています。けれど保育所に通えない子が、一人で村の中をうろつくのは心配です。特に最近は、十分な教育を受けていない若者が麻薬に手を出すことが多く、教育や適切なケアを受ける必要性を痛感しています。

地区としても保育所は大事な場所だと認識していますから、小さい子を持つ親たちは特に大切だと感じているはずで、保育所が継続して運営されるよう、地域の方々、特に保護者に施設の大切さや必要性を説明し、運営にもっと協力するよう呼びかける予定です。地区長として運営に協力しますが、地区評議会の開発予算は限られているので、できる限り村人を巻き込み努力しようと考えています。



幼稚園に早く慣れてもらおうと、新入園の子に何度も声をかける保育者（スダオカンラエン・プラム村の幼稚園にて）

挨拶ができた子、友だちに優しい子、先生の手伝いをした子などを積極的に褒めるようにしています。そして「友だちのことも褒めてね」と伝えるのです。もし、その子が友だちを褒めるのを聞いた時には、二人をみんなの前に出して拍手をします。こんな繰り返しをしているうちに、子どもたちも仲良くなり、人前に出た時の緊張感も薄れて、幼稚園での生活がもっと楽しくなります。

2015年に開設したスダオカンラエン・プラム村の幼稚園では、初登園の日にお母さんと一緒に来た子がいました。その子はお母さんが帰ると、「お母さんが帰るなら僕も帰る」と先生に怒って、呼ばれても返事をしません。休み時間にはひとりで隅の方に座り、お母さんの迎えを待って友達と遊ぶともしません。先生は、「もう少しでお母さんが迎えに来るよ」と慰め、みんなの前で発表をしている子や、勉強をしている子のことを話題にしてみました。すると、だんだんと興味が湧い

たと見えて「あれなら僕もできる」と言う言葉が返ってきたのです。そこで先生が「もしできるならみんなに見せてあげて」とすすめると、男の子は次第に話をするようになりました。それだけでなく、座る椅子も隅の方から真ん中に移り、友達と競って手をあげるようになりました。その子が黒板の文字や数字を正しく読めたら友達が拍手したり、先生が褒めたりするうち、最近では呼ばれたらすぐに手をあげて、人前で話せるようにもなりました。子どもたちは褒められるのがとても嬉しく、それによって自信もつくだと、私たちも実感しました。

3歳から5歳の子どもたちにとって、たとえ友だちの前であっても大勢の前で話す、歌い、踊ることは簡単ではありません。前に出ると恥ずかしくてまっすぐ立つことができない子、口に指を入れる子、顔を見せまいと後ろ向きに立ったり、うつむいたりする子…と様々です。けれど、幼稚園に通っている間に人前で話す勇気を持つこ

と、他の人を認めて褒める優しい心を自分の中に育てることはとても大切だと考えています。特に、人前で話すことは、将来、自分の意見などを他の人に伝える練習にもなります。その練習があれば、大きくなったら社会の活動・国の発展のために自分の経験や意見を出せる人になると思います。幼稚園での活動を通して、勉強だけでなく、勇気を持つ、友だちと仲良くできる、友だちの気持ちが分かる、友達を応援したり拍手したりできる、そのような子どもたちに育つよう、村の幼稚園ではサポートしていきたいと思っています。

当会保育アシスタントに励まされながら、一生懸命に発表する園児



## 2

### 村の幼稚園の子どもたち「褒められて育つ子どもたち」

「勇気があるね、良く勉強できたね、優しいね…」これらは村の幼稚園で聞かれる褒め言葉です。幼稚園では、子どもたちが保育者の問いかけに手を挙げて答えた時、礼儀正しく振る舞えた時などに、このような言葉で褒める場面が良く見られます。当会運営の村の幼稚園では、保育者は日常生活の中で、小さなことでも子どもたちを意識的に褒めて励まし、子どもたちが日々楽しく過ごしながら成長できる環境作りを大切にしています。今回は、カン

ボジア事務所長チャン・スレイに、村の幼稚園が重んじる、「励ましのことば」について聞きました。

村の幼稚園では日常的に、子どもたちを褒めます。もちろん、子どもによって性格も違いますので、励まし方もいろいろです。例えば、幼稚園で積極的に取り入れている「みんなの前での発表」の時間を見えます。ある子どもは一度でも発表をすると自信がついて、人前で話せるようになります

が、そうでない子には、保育者がやさしく話しかけたり、まず人前に出たための緊張をほぐしたりします。ゲームを取り入れることもあります。どうしてもみんなの前で話せない子がいる時は、友だちと一緒に発表する形をとることもあります。間違っても叱ることはないし、質問をわかりやすくしたり、冗談を言ったり、いろいろな工夫をします。こっそりその子に答えを教えることもありますね。私も職員も幼稚園を訪ねる時は、礼儀正しい

## 3

## 卒園児のいま

ルアン・チャンリーさん(24歳)。幼い難民を考える会カンボジア事務所(CYK)が運営支援を行う、バンキアン保育所の卒園生です。チャンリーさんは2000年に保育所を卒園、その後、バンキアン小・中学校、プレクスラエン高校を卒業しました。そして、プノンペンにあるセテック大学の情報システム科に進学し、現在はIT企業に勤務しています。チャンリーさんに保育所の思い出、大学生活、そして今の生活について聞きました。

小さい頃、父は農業をしながら建設労働者として、母は縫製工場で働いていたため家におらず、私も妹も保育所に通っていました。保育所でのことを思い返すと、毎週木曜日に先生が田んぼやお寺に連れて行ってくれたこと、友だちと折り紙を折ったり、絵本を読んだりしたことなど、楽しい思い出ばかりです。もちろん、先生に叱られたことや友だちとけんかしたこともあって、その時は嫌でしたね。私は保育所に通うことができ、本当に良かったと思っています。保育所の先生たちが勉強の仕方や友達との付き合い方を教えてくれたことにとっても感謝しています。また、保育所で文字や数字を勉強していたので、小学校の授業がとても楽でした。妹も以前はあまり発言をする子ではありませんでしたが、保育所

に通うようになってからきちんと話ができるようになりました。私も子どもが生まれたら、同じように保育所に通わせてあげたいと思っています。

高校卒業後はセテック大学に進学し、情報システム学部で学びました。この分野を専攻した理

由は、今はITの時代ですが、この分野を勉強する女性はあまりいないので仕事を見つけやすいのではと周りに勧められたからです。当然、授業はパソコンに向かってることがほとんどだったので難しく、よく目が痛くなりました。授業は午前中だけでしたので、授業以外は地元近くの私立幼稚園で英語講師のアルバイトをしていました。子どもたちはかわいく、授業を良く聞いてくれました。子どもが英語をよく理解できた時にはとても嬉しかったです。けれど、質問をしても答えてくれない子どもがいたり、騒いだりする時は本当に大変でした。また、私立幼稚園は私が通ったバンキアン保育所と比べて違っていたので、最初は少し戸惑いました。保育所では先生たちは丁寧



当会職員からの質問に笑顔を絶やさず答えてくれた、ルアン・チャンリーさん。

に教えてくれたし、話を聞いてくれたり、一緒に遊んでくれたりしました。けれど、私立幼稚園では子どもたちに勉強をさせるだけ。小さい子でも、授業は席についてABCを教えるところからのスタートで、大変そうでした。

大学を卒業してからは、銀行でシステム担当として働いています。学んできた事を活かして働けるのでとても嬉しいし、楽しいです。週末になると家族が住むバンキアン村に帰り、家族と一緒に過ごすこともできるので、辛くありません。今は両親だけでなく私の収入もあるので、家族の暮らしも随分と楽になって、幸せです。

## CYR 情報

## 2018年カレンダー「カンボジアの子どもたち」

今年も、撮影 高橋智史氏、レイアウト 熊谷正氏のご協力でカレンダーを製作中です。2018年をカンボジアの子どもたちの笑顔とともに、過ごしてみませんか。カレンダーの販売開始は9月上旬を予定していますが、ご予約も受け付けております。

価格 1冊 800円(送料 1冊 180円、2冊以上は送料無料)

2017年12月21日(木) 18時より  
グレゴリオ聖歌によるクリスマス夜半のミサ  
“幼い難民を考える会”のために

主催 CANTATE DOMINO

後援 JCDA 日本合唱指揮者協会

場所 聖心女子大学聖堂 渋谷区広尾 4-3-1

地下鉄日比谷線 広尾駅2番出口 徒歩5分

※どなたでもご参加いただけます。

## 子どもたちの明日 121号

発行日：2017年7月26日 発行者：廣戸 直江

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

## 東京事務所(CYR)

〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 2A

TEL: 03-6803-2015

FAX: 03-6803-2016

Email: info@cyr.or.jp

URL: http://www.cyr.or.jp/

## プノンペン事務所(CYK)

#170, St.63, Boeung Keng Kang I, Khan Chamkarmorn, Phnom Penh, Cambodia

TEL: (+855) 23 210849

FAX: (+855) 23 210849

Email: info@cyk.org.kh

URL: http://www.caringforyoungkhmer.org/

幼い難民を考える会(CYR)は認定NPO法人です。  
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。